

文教厚生委員会で政策提言しました

医師確保のための 臨床研修システムの構築に向けて

新臨床研修制度

- 平成 16 年度からの新臨床研修制度によって、卒後の医学生たちは自由に研修先を選べるようになり、その多くが都会の機能や設備の充実した病院に研修の場を求めています。
- そのため、人手不足に陥った大学は、自らの診療と研修、研究の 3 本柱を維持するため、ぞくぞくと関係病院から医師を引き上げるようになり、今、地域の病院は多くが医師不足の状況に陥っているのはご承知の通りです。
- ところが、この医師の養成に東京など都会と並んで全国トップクラスの実績を上げている普通の県があります。沖縄県です。沖縄の取り組みはこの度の初期臨床研修制度導入のモデルとなっています。
- 現地で見聞した医師養成の取り組みは本当に参考に値するもので、私たち文教厚生委員会がこの度提言を行ったのも、医師確保対策として最も重視すべきは、医師を育てること、つまり臨床研修制度を充実させることであるという、沖縄の取り組みを見てからでした。

現状と課題

- 島根県内の初期臨床研修指定病院は、島根大学医学部、県立中央病院など 12 施設あります。
- しかし、島根県全体の初期臨床研修の募集定員は 90 名ですが、平成 20 年の研修医は 40 名で鳥取県に次いで少なく、募集定員に対する応募者数の割合を示すマッチ率は 42% と全国最下位です。
- 島大付属病院の定員は 48 名でマッチ者数 22 名、55% と比較的頑張っていますが、それでも毎年の卒業生は 95 名です。また県立中央病院は 10 名募集に対し 10 名マッチ、松江日赤は 10 名に対し 4 名、その他一度も研修医を受け入れたことのない病院もあります。

臨床研修医を確保するためには、各病院の個別の取組みだけではなく島大付属病院を中心に各病院が連携し一体となった取り組みを体系的に行う必要があります

提 言

- (1) 臨床研修の資質向上を目指し、そのシステム構築に向け県として必要な施策を講じ、その実現を図ること
 - ① 島根大学付属病院を中心に「病院群」を形成し、臨床研修のレベルアップを図ること
 - ② 「病院群」形成にあたっては、可能な限り多数の病院・診療所及び介護施設等を包含するよう関係機関の合意形成に努めること
 - ③ 臨床研修の理念として、離島・中山間地域における医療に対する使命感の育成に重きをおくこと
- (2) システム構築後の目標として、以下の点を関係者の間で共有できるよう、関係機関と連携して必要な措置を講じること
 - ① 遅くとも 2~3 年後を目途として、可及的速やかにマッチング率向上の実績を上げること
 - ② 県外からの研修医の募集や県外在住の島根県出身研修医、島根大学医学部卒業医あるいは在籍経験のある医師などの帰県を促すこと。
- (3) システム構築とその後の円滑な運営、研修医に対するホスピタリティの醸成などのため、市町村・医師会などとの連携に努めること

医師確保と研修制度

社会問題ともなっている医師不足が全国各地で訴えられるようになったのは、ひとつのきっかけがある。

医師養成の新しいシステムとし

医師としてスペシャリストを目標

特に研修医の県外流出が激しい島根県内では医師不足が深刻化し、離島や中山間地では十分な診療が受けられない医療危機に直面している。

そうした医師不足を解消するため、県内での医師確保を目指した臨床研修システムについて島根県議会文教厚生委員会が提言をまと

め、溝口善兵衛知事に提出した。提言の骨子は、研修医の受け入れ先として単独の病院では対応できないうとして、複数の病院が連携して研修の質を高める病院群システムを提唱している。

それぞれの病院の特色を生かしながら、質の高い臨床プログラムを提供して研修医にとっての魅力

を高める狙いである。沖縄県のシステムをモデルとしている。そのことによって研修医を留め、大病院の人材不足を解消する一方で、将来県内に残ってもらう。養成の段階にさかのぼって医師を囲い込むことを狙う。

提言に盛り込まれた病院群に似た研修システムは、島根大学医学

論説

島根に困い込む工夫を

て二〇〇四年度から初期臨床研修制度が導入されたことである。医学部を卒業して医師免許を取得したばかりの研修医が研修先を自由に選びながら、幅広い診療を経験する。

指す前に広く浅くシエネラリストを踏まえる。そんな狙いを込めてスタートした。

部付属病院を中心に既に県内でも採用されている。その上で研修医の定着率を高めるために研修システムに工夫を加え、質的に充実させていく方向を目指してほしい。

特効薬はないが、医師になろうとする志の段階から地域への思い入れを育てる。医師を目指す地元高校生に地域医療の大切さとやりがい教える。あらゆる手だてを尽くすべきだ。

最先端の心臓手術のテクニクは心得ていても、風邪ひとつ治せない。最初からそんな一点特化型

制度の狙いは当を得たものである。しかしあおりで大病院に残る研修医が減り、その穴埋めのため、大学から各病院に派遣している医師を引き揚げる影響が広がっている。

初期臨床研修を実施している県内の指定病院は、島根大医学部付属病院や県立中央病院など十二施設がある。しかし二〇〇八年に県内

で初期臨床研修を受ける研修医は四十人と全国で鳥取県に次いで少なく、募集定員に対する充足率は県全体で42%で全国最下位。